

スペイン語の名詞句における数と 限定詞の生成条件について

栗林ゆき絵¹

東京外国語大学非常勤講師

1 スペイン語の名詞句の構造

スペイン語の名詞句は「限定詞(冠詞を含む)+名詞²」
という2つの部分からなる。

- 指示的な(個別的な)個物(インスタンス、要素)を
指す場合
限定詞(冠詞を含む)+名詞(単数形/複数形)
(1) dijo *el vecino*. (MOR60)
「隣人」は言った。³
(2) cerró *los ojos*. (MOR66)
彼は「目」を閉じた。
- 個別的なクラスを指す場合
定冠詞+単数形名詞
(3) Nos gusta *el arroz*. (MOR67)
私達は「米」が好きだ。
- 指示的(個別的)でない(あるいは指示性に関して
中立な)個物を指す場合
1. 不定冠詞+単数形名詞
(4) *Un camionero* tiene que ir cómodo. (MOR40)
「トラックの運転手」というものは動きやすい恰好で
行かなくてはならない。
2. 定冠詞+複数形名詞
(5) *los camioneros* suelen trabajar sin llevar a
sus hijos en el camión. (MOR28)
「トラックの運転手」はトラックに自分の子供を乗せ
たりしないで働くものだ。
3. 無冠詞の複数形名詞
(6) La gente cuando viaja, compra *regalos* para
sus familiares y sus amigos. (MOR34)
旅行するとき人は家族や友達に「お土産」を買うものだ。

本発表では、指示的でない個物を指す場合、言い換え
れば、あるクラスに属しうる”一般的な”個物(要素)につ
いて言及する場合の形式のうち、後2者、すなわち、定
冠詞つき複数形名詞の場合と、無冠詞の複数形名詞の場
合に注目し、この2つの生成条件について記述する。

¹kuriy@bk.ij4u.or.jp

²形容詞等の修飾を受けることもあるため、1形態とは限ら
ない。わかりやすさを考慮し、本来なら「名詞句」となるとこ
ろを名詞と呼んでいる。

³以下問題の箇所をイタリック、それに対応する日本語を「
」つきで示す。

2 複数形が現れる条件

スペイン語の名詞句において、複数形が現れる条件につ
いては、すでに拙稿(Kuribayashi(1999)[2], 栗林(2000)[3]
参照)で述べた。そこでの議論をまとめておく。

複数形の第一の機能は、可算名詞(可算とみなされて
用いられた名詞)について、その「数に関心がない」「数
に関して中立である」ことを表すことである。

従って、単数形か複数形かの選択は以下のように行わ
れる。

1. 指示対象の数に関心がない場合

複数形

(7) Estas cosas sólo les pasan a esos niños que
salen en *las películas*,... (MOR15)

こんなことは、「映画」に出てくる男の子にしか起こら
ない。

(8) Es que tú quieres *respuestas* para todo, y no
todo tiene *respuestas*. ([MOR]48)

君は何にでも「答」をほしがるけど、何でも「答」があ
るわけじゃない。

2. 指示対象の数がわかっている場合

(a) 数が1でない→複数形

(9) Mi padre tuvo que arrancarme de *los*
brazos de mi madre. ([MOR]32)

私の父は私を母親の「腕」から引き離さなくては
ならなかった。

(b) 数が1である→単数形

(10) se me acercó *un chaval*. ([MOR]11)

「男の子」が私に近づいてきた。

本発表で扱う「あるクラスに属しうる個物」を表す名
詞句は、最初の「数に関心がない」場合に含まれる。

3 定冠詞つき複数形か無冠詞複数形か

次に、複数形名詞に伴う定冠詞の有無について検討す
るため、コーパスから収集した「あるクラスに属しうる
個物」を指している複数形の名詞句を含む例を分析して
いく。

3.1 参加項と定冠詞つき複数形

定冠詞を伴う例としては以下のようなものが見られた。

(11) en *las novelas* ... no sale gente corri-
ente. (CA29)

「小説」には普通の人は出てこない。

(12) Es un gran parque alargado por donde resulta excitante caminar de noche, escondiéndose de vez en cuando detrás de los árboles... (CA13)

時々「木」の後ろに隠れながら夜歩くのがわくわくする大きな公園である。

以上の例ではいずれも、出来事(「人が出る」「人が隠れる」)の生起する場所(「小説に」「木の後ろに」)を表す名詞句が、定冠詞付き複数形になっている。例(7)でも同様に「映画に出る」という出来事の場所「映画」películasに定冠詞が付いている。

次は出来事の参加項(動作の主体(13)、対象(14)、相手(15)等)の名詞句が定冠詞を伴っている例である。

(13) Las tostadas seguían en el tostador. (MOR62)

「トースト」はトースターに入っただけだった。

(14) Acabaré como todos los veranos, sola, con estos dos y con el abuelo, regándoles las plantas a las vecinas... (MOR22)

いつもの夏と同じように、ひとりで、この2人とおじいちゃんの相手をして、隣の人の「植物」に水をやりして、終わるんだわ。

(15) a los niños es mejor no hablarles de los asuntos que les producen trauma. (CA45)

「子供たち」にはトラウマを引き起こすようなことを話さないほうがよい。

出来事に直接関わる要素、すなわち、動作者、対象、相手といった出来事の参加項⁴は、出来事の生起する場所と同様、定冠詞付きで用いられる。出来事の生起する場所、参加者などは、事象の成立に先立って存在することが必要であり、「あるクラスに属する要素」の中からあらかじめ「要素を取り出し」て「前提」として発話に取り込む操作が行われる。この機能を持つのが定冠詞であると考えられる。

好き、嫌いの表現において、「好きあるいは嫌いな対象」はやはり先に存在するものとして、定冠詞を伴って述べられる。

(16) Creí que no le gustaban los gatos. (CA67)

あなたは「猫」が嫌いなんだと思ってたわ。

動作者、対象のほか「～について」という話題を表す名詞句は、話題として取り上げるまえに存在するもの

⁴動詞派生名詞を修飾する名詞句の場合は、動詞派生名詞の項構造にのっての参加項となる

として、「前提」として述べるのが自然である。従って原則、定冠詞付き複数形で用いられるようである。

(17) era adicta a los programas de televisión donde se hablaba de los complejos de los niños (CA33)

彼女は子供の「コンプレックス」について話しているテレビ番組の信奉者だった。

3.2 状況語と無冠詞複数形

次に無冠詞の複数形の例を見てみる。

3.2.1 無冠詞の参加項

まず、前章で定冠詞が出やすいと指摘した出来事の参加項を表す名詞句について、それが無冠詞で用いられている場合の例を見ることにする。

(18) Cuando volvía a casa, ..., se metía en la cocina a hacer tartas... (CA16)

彼女は家に帰ると、...「ケーキ」を作るためにキッチンへ入っていったものだ。

例(18)の *hacer tartas* は日本語の「ケーキ作り」に近い表現であろう。無冠詞複数形の *tartas* は「ケーキ作り」の「ケーキ」と同じ機能を担っていると考えられる。これは、その名詞句の指示性が決定されない状態のままで発話に取り込む、すなわち、指示性に関して中立なまま名詞句に言及しているという用法である。

主語名詞句でも、「起こること」は「起こる」という事象の成立と同時に出現するから、前提にはなりえないはずである。従って、「起こること」「起こるもの」(「起こる」という動作の主体)を表す名詞句には定冠詞は用いられない。

(19) a ti te han pasado cosas más espeluznantes que las que a mí me pasaron ...

(MOR15)

君に私に起こったのよりも「ぞっとすること」が起こった

3.2.2 場所以外の状況語(状況項)

無冠詞の複数形が現れる主要なケースは、次に挙げる状況語の場合である。ここでは動詞修飾のいわゆる状況補語だけでなく、参加項(動作者、対象、相手など)でない名詞修飾の句をすべて状況語とする。状況語はスペイン語では前置詞句の形で現れるので、ここでは、前置詞に導かれる名詞句が複数形をとっているケースを扱うことになる。

1. 属性の例

- (20)(el dormitorio) olía *a colillas* (CA61)
「寝室は」煙草の吸い殻のにおいがした。
(21)una rubia *de tacones altos* (CA48)
「ハイヒールの」金髪女性
(22)un cuaderno *con tapas duras* como de libro (CA32)
本のような「ハードカバーの」ノート

2. 部分の例(分格的用法。deは“of”の意)⁵

- (23)un grupo *de amigos* (CA34)
「友達の」グループ
(24)un par *de fichas doradas* (CA49)
「金のコインの)」2、3枚

3. 手段の例

- (25)todos los niños han vuelto del colegio *en autobuses* ... (CA14)
子供たちはみんな「バスで」学校から戻ってきている。

4. 結果の例

- (26)se puso a recoger con cuidado todos aquellos papeles, ..., agrupando las fotografías por tamaño *en montones distintos*. (CA62)
写真をサイズで「別々の山に」分けたりして、... あの紙を全部注意深く片づけ始めた。

状況語は、参加項に比べ出来事への関わりの度合いが低い要素である。従って、発話時に「あるクラスに属する要素を取り出して前提として発話に取り込む」操作が行われないと考えられる。それゆえ、定冠詞は用いられないのであろう。

このことは、結果を表す名詞句(例(26))が、無冠詞で用いられていることを見れば明らかである。ある出来事の結果生じる要素は、前提として扱うことは不可能であるから、定冠詞つきで用いられない。

一方、原因を表す名詞句は、出来事に先立って存在し、前提となりうるので、定冠詞が用いられるようである。

- (27)(el brote de legionella) se ha propagado supuestamente *por las emisiones* al aire libre de alguna torre de refrigeración ... (EPD001014)
(レジオネラ菌は)どこかの冷蔵タワーからの空気中への「放出によって」広まったものと推定されている。

⁵ただし uno de los amigos([4]参照)

前置詞句でも、前章で見た場所の名詞句のほか、相手(参加項)を表す場合は、例(15)と同様に定冠詞付きで「前提」として扱われる。

- (28)hablaba siempre por las mañanas *con los viejos aquellos* (CA49)
彼女はいつも午前中「あの老人たちと」話していた。

3.3 まとめ-要素を前提として取り出す定冠詞-

ここまでの分析から、定冠詞は「要素を取り出して前提とする」機能を持つことがわかった。従って、「あるクラスに属する個物」に言及する際、ある名詞句についてその指示対象となりうる要素を取り出し、あらかじめ聞き手に「前提」として提示する意図が話し手にあれば、定冠詞が用いられる。そうでなければ、無冠詞のままということになる。

4 名詞句の意味と形式の対応

4.1 数と取り出し方

前章までで、「あるクラスに属する個物」に言及する際の名詞句における、数と定冠詞の生成条件を見てきた。ここでは、指示対象によらず一般に名詞句の意味と実現形式がどのような対応関係にあるかの全体像を眺めてみたい。

複数形は「数に関心がない」ことを表す、数に中立な形式であったが、定冠詞は「要素を取り出して前提とする」機能を持つ。これら2つは独立した基準により生成される。すなわち「数」の基準と「クラスからの個物(要素)の取り出し方」の基準である。「数」に関して中立な形式が複数形であったのと同様、「取り出し方」に関して中立な形式が定冠詞などの限定詞を伴わない形式すなわち、「無冠詞」の形である。

4.2 数と限定詞に関する意味と形式の対応

実現形式の選択の基準と選択される形式をまとめると次のようになる。

1. 数について。

- 1) 数に関心がない。

複数形 (*amigos* (友人))

- 2) 数に関心がある。

2-a) 数が1でない。複数形 ((*dos*) *amigos* ((2人の友人)))

2-b) 数が1である。単数形 ((*un*) *amigo* ((1人の友人)))

2. 「取り出し方」について

1) 取り出さない

無冠詞 (*amigos* (友人))

2) 取り出す

2-a) 固定のメンバ(決めて選ぶ)

2-a-1) 直示によって

指示詞(*este, ese, etc.*) (*este amigo* (この友人))

2-a-2) 所有者を限定して

所有詞(*mi, tu, nuestro, etc.*) (*mi amigo* (私の友人))

2-a-3) 前提として(聞き手にとって既知のもの)

定冠詞(*el*(単数) / *los*(複数)) (*el amigo / los amigos* ((その) 友人))

2-a-4) 新規に取り出す(聞き手にとって未知のもの)

不定冠詞(*un*(1つ)/*unos*(数個)) (*un amigo / unos amigos* (ある友人 / 数人の友人))

2-b) 条件を満たしていればどれでもよい

2-b-1) 条件=すでに取り出されたもの以外

otro (*otro amigo* (別の友人))

2-b-2a) 条件=どれか1つ

alguno (*algún amigo* (ある友人))

2-b-2b) 条件=どれか数個

algunos (*algunos amigos* (数人の友人))

2-b-3) 条件=どれかをたくさん

mucho (*muchos amigos* (たくさんの友人))

2-b-4) 条件=取り出す数がゼロでない決まった数

dos, tres, ... (数詞) (*dos amigos* (2人の友人))

2-b-5) 条件=取り出す数がゼロ

ninguno (*ningún amigo* (1人の友人も...ない))

5 結論

最後にもう一度結論をまとめておく。

1. 定冠詞は、名詞句で表すことが可能な要素から、指示的であれ、非指示的であれ、代表となる要素を取り出し、それを「前提」として発話に取り込む機能を持つ。

名詞句が指示性に関して中立な場合、つまり、あるクラスに属しうる個物について述べている場合、単に数に関心がないだけならば、無冠詞の複数形でよい。

しかし発話に「前提」として取り込む必要がある場合には、定冠詞をつける。「前提」として取り込まれやすいのは、場所、動作者、動作の対象など、出来事への関わりが比較的高い項である。

2. 指示性に関して中立ではない場合、その名詞句はなんらかの限定詞を伴う。限定詞は、あるクラスに属しうる個物のなかから要素を取り出して述べるときの、「取り出し方」を表すものである。「取り出し方」の違いが限定詞の選択を決定し、「取り出さない」で述べる場合は無冠詞となる。(限定詞のうち定冠詞が選択されるのは、「前提」として取り出された場合である。)

Bibliografía

- [1] Bosque, Ignacio. (ed.). 1996. *El sustantivo sin determinación*. Visor Libros. Madrid
- [2] Kuribayashi, Yukie. 1999. "Sobre la pluralidad - Lo que significan los plurales o ¿qué es la pluralidad?". *Lingüística hispánica* 22. pp.21-36. Círculo de lingüística hispánica de Kansai
- [3] 栗林ゆき絵, 2000. 「複数形の機能をめぐって-Laca(1996)に基づく考察」. 『スペイン語学研究 15』 pp.23-36. 東京スペイン語学研究会
- [4] 栗林ゆき絵, (近刊). 「映画に出てくる男の子」名詞句の意味と実現形式-複数形と定冠詞の使用について-. 『名古屋大学言語学論集 第16号』 掲載予定
- [5] Laca, Brenda. 1996. *Acercos de la semántica de los "plurales escuetos" del español*. en [1].

Corpus

- [COM] Lindo, Elvira. 1996. *¡Cómo molol!*. ALFAGUARA.
- [MOR] Lindo, Elvira. 1998. *Manolito on the road*. ALFAGUARA.
- [CA] Martín Gaité, Carmen. 1990. *Capercita en Manhattan*. Ediciones Siruela.
- [NU] Martín Gaité, Carmen. 1992. *Nubosidad variable*. Editorial Anagrama.
- [LU] Mateos, Pilar. 1983. *Lucas y Lucas*. Ediciones SM.
- [H] 宮城昇, 山田善郎編『現代スペイン語辞典(改訂版)』. 1999, 白水社.
- [EPD] EL PAIS DIGITAL (<http://www.elpais.es>)